

新年度スタート

春休みも終わり、プロ野球も開幕。いよいよ本格的に新年度がスタートしました。

高野町では先週あたりから円正寺・金秀寺の枝垂れ桜も見ごろを迎え、町外から多くの方が花見に訪れていました。

直売所にはタラの芽や筍など山菜の真打ちが登場。アスパラガスやほうれん草、しいたけなども大人気。土曜日曜は高野町内と集荷で集まった町外の野菜が沢山あっても夕方には見事に売り切れる盛況ぶりとなっています。遠慮なく出荷にお越しくださいね♪

道の駅たかの (広報・企画グループ)
庄原市高野町下門田49
☎0824-86-3131
michieki_tak@takanoyama.jp
<https://www.takanoyama.jp>
★Twitter・インスタも更新中♪



金秀寺の枝垂れ桜 (4月9日)

直売所からのお知らせ

いつも精力的な出荷で売り場を盛り上げていただきありがとうございます。これからの農繁期に向けて、種蒔きや育苗も進んでいるのではないのでしょうか。売り場には旬の山菜が並び、それを求めて多くのお客様がご来店されています。

先日、山菜の出荷や雪室用じゃがいもの買取、米グループ会議など、今年度の出荷に関するルール決めを行いました。昨年度から変更になったルールがいくつかあります。重要な部分を抜粋してご紹介しますので今後の出荷の参考にしてください。

山菜の出荷ルールについて

毎年4月から5月にかけては庄原市全域から旬の山菜を出荷していただいておりますが、毎年旬の時期から大きく外れた時期に山菜が出荷されていたり、明らかに育ちすぎたものが売り場に並んでいることがあります。そこで、山菜を出荷できる時期などについてのルールを作りましたのでこれに従って出荷していただくようお願いいたします。詳細は道の駅スタッフまでお問い合わせください。

うどん	5月末まで	こごみ	5月末まで	ぜんまい	5月末まで
たけのこ	5月末まで	ふき	6月15日まで	わらび	5月末まで
葉わさび	5月末まで	さんしょう	5月末まで	セリ	5月末まで
イタドリ	5月末まで	タラの芽	6月15日まで	コシアブラ	5月末まで

雪室貯蔵用じゃがいもの買い取りについて

今年度も雪室貯蔵用じゃがいもの買い取りを行います。今年度から新たに買い取り出来るじゃがいものサイズを農協の規格に統一しました。下記の範囲内のものに限って買い取り可能です。価格等は昨年度と同様です。詳しくはスタッフまで。

2L	170g~260g
L	110g~170g
M	70g~110g
S	40g~70g

品種：問わない

※推奨 ①キタアカリ、メークイン、デジマ
【品質が安定しているため】

②グランドペチカ、シャドークイーン、ノーザンルビー【味覚に定評があるため】

ながせ としこ
長瀬 利子さん（高野町南）

高野町南の長瀬利子と申します。出身は比和町で、結婚を機に高野に来て53年目になりました。高野に来てからは農協に37年間勤め、福祉・介護、金融、生活指導員など幅広い業務を担当した後、退職後は新市で「りんご畑」という飲食店を開業しました。

ここでは主に山菜料理が中心のバイキングを提供していました。テレビ朝日の「人生の楽園」に出演する機会があり、その時には一日に220人ものお客様が来店したこともありました。

農業は嫁いだ時に姑さんから「好きな野菜をつくってみんさい」と2反の畑を貰い、初めてナスを作ってみたら大変立派なものが出来ました。それ以来農業の楽しさに気づき、野菜を作っては農協に持って行って皆さんに配っていました。

現在は6反の畑で、白ネギや里芋、トマト、レタス、アスターなど様々な種類の野菜や花を栽培しています。昨年は41品目86種類を栽培しました。

元々圃場は8反ありましたが、6年前から2反を果樹園にし、桃やネクタリン、プラム、ブルーベリーなどを育てています。少しずつ収穫できるようになってきて、今年からは少しずつでも道の駅にも出荷が出来そうなので楽しみにしています。



野菜、花は全て種から育苗し圃場に移植していきます。全て手作業で行っています。

花をつけたネクタリンの木。その他黄桃、ブルーン、イチジクなど多品目を栽培しています。

昨年度は精力的な出荷と、外部視察（圃場見学）などにもご協力いただき会長賞が贈られました。

農作業は朝早くにするようにしています。特に夏場でも朝方は涼しいので、暑くなってくる時期には早起きをして朝5時には畑にいます。涼しいと作業が捗るし、朝霧の中で作業をすると天然の美容ミストでお肌がスベスベになります（笑）。

最近は種や肥料が高くなっているので、出荷の際の販売価格もある程度高くしないと採算ベースに乗りません。良いものができたらある程度の自信をもって、しっかり採算が取れる値段で販売することを心がけています。

6反の畑を一人で管理しようと思ってもなかなか手が回りませんが、近くに住む息子が帰ってきたときには草を刈ってくれたり畝を立ててくれるのでとても助かっています。

また、近所の皆さんも年を取って農作業するのが年々大変になってきていますが、集まって色々な話をしながらお茶をしたりご飯を食べ、農作業も近所同士で力を合わせながら共同でやっていくことで楽しみながらそれぞれの負担も減らせ、それが日々の活力にもなっています。

今後は100種類の栽培を目指して、周りの皆さんに目をかけてもらいながら楽しむことを忘れずに農業を続けていきたいと考えています。